

## VI 学校・家庭・地域社会の連携と完全学校週5日制

## ■学校・家庭・地域社会の連携■

## 学校のスリム化

——過度の学校依存、「合校」構想、教師の多忙感、  
部活動の過熱化

上越教育大学教授 高田 喜久司

## ◀設問▶

学校のスリム化をどう進めるか。

## 1 「学校のスリム化」が強調される背景

そもそも「学校のスリム化」が強調されなければならない背景は、どのような教育状況に由来するのであろうか。

何よりもまず、学校はあまりにも多くの教育機能を背負いこみ、ふくらみきって肥大化していることへの反省がみられる。重要な教育課題は学校に任せておけばなんとかなるといふ社会の学校に寄せる過大な期待が学校に努力を強いてきたともいえよう。すなわち、「過度の学校依存」「何でも学校で」と揶揄された教育体質は改善されていない。相変わらず、学校は家庭でやるべき基本的な生活習慣やしつけまで引き受けている状態にあるし、さらにエイズ教育や性教育、国際理解教育や情報教育・環境教育等、新しい教育課題も看過するわけにもいかず、学校教育の肥大化は解消されていないのである。

つぎに、脱偏差値が叫ばれながらも受験競争の弊害は払拭されず、部活動の過熱化も手伝って、子どもにもゆとりがなく過労気味である。

さらに、近年ではいじめや不登校、非行が社会問題化するほどに深刻化しており、教師はその対応に苦慮している。その結果、「教材研究する時間がない」「家への仕事の持ち帰りは当たり前」など、教師も過密・負担過重によって多忙をきわめている実情にある。

これら素描した要因が競合し、学校はパニック寸前の状態である。肥大化しつつある学校教育を思いきってスリム化し、学校を質的に改善することは焦眉の教育的課題なのである。

こうした教育状況を背景として中教審は、学校のスリム化を答申したといえる。学校が子どもにとってゆとりのある生活の場となるためには、学校のスリム化は必至だからである。

## 2 第一次答申「学校のスリム化」の提言内容

「学校のスリム化」の提言は、中教審「第一次答申」における第2部第4章「学校・家庭・地域社会の連携」のなかに明記されている。

この「学校のスリム化」の提言内容はまず、学校本来の役割の見直しを前提として、次に部活動の改善や教育内容の厳選、さらに学校行事や会議の精選等について指摘・言及する構成となっている。それぞれの具体的な提言内容をサブテーマに即しながら、キャッチフレーズ風に概観するならば、次のように整理されよう。

### (1) 教育における学校・家庭・地域のバランス

「学校・家庭・地域社会の連携と適切な役割分担を進めていく中で、学校が本来の役割を有効に果たすとともに、学校・家庭・地域社会における教育のバランスをよりよくしていくことは極めて大切なことであり、こうした観点から、学校が今行っている教育活動についても常に見直しを行い、改めるべき点は改めていく必要がある」。

そして、教育活動の見直しにあたっては、子どもたちが家庭や地域社会という学校外での生活体験や自然体験の機会を少なくしている現状を踏まえることを要請している。こうした考え方から、次の2例の検討が課題とされているのである。

### (2) 家庭や地域の積極的役割への期待

「その一つは、現在、家庭や地域によりその実態は異なるものの、日常生活におけるしつけ、学校外での巡回補導指導など、本来家庭や地域社会で担うべきであり、むしろ家庭や地域社会で担った方がよりよい効果が得られるものを学校が担っているということである。これらについては、家庭や地域社会での条件整備の状況を勘案しつつ、家庭や地域社会が積極的に役割を担っていくことを促していくことが必要である」。

### (3) 画一的・勝利至上主義的な部活動の改善

「二つ目として、部活動の問題である」として、子どもの体と心の発達や仲間づくりに資する等、部活動の教育的意義をクローズアップしつつ、さらに勝利至上主義的な部活動を改善する必要性を強調している。

「しかしながら、学校が全ての子供に対して部活動への参加を義務づけ画一的に活動を強制したり、それぞれの部において、勝利至上主義的な考え方から休日もほとんどなく長時間にわたる活動を強制したりするような一部の在り方は改善を図っていく必要がある」。

そのうえで、地域社会における条件整備を進めつつ、地域の教育力の活用を図ったり、地域において活発な文化・スポーツ活動が行われており学校に指導者がいない場合など、地域社会にゆだねることが適切かつ可能なものは委譲する必要があると敷衍している。

#### (4) 教育的意義の問い直しによる行事や会議の精選

上記のほか、「教育内容の厳選」によるスリム化を強調したあとで、行事や会議の精選について次のように提言する。

「現在、学校が行っている様々な行事や会議についても、学校がその本来の役割をより有効に果たすために、その教育的意義を問い直し、絶えずその実施方法の工夫を含め、精選を図っていくべきである」と考える」。

「学校スリム化」に関する「第一次答申」の提言内容は以上のとおりである。それでは具体的に、学校のスリム化を進める基本的観点をどこに求めたらよいのであろうか。

### 3 「学校のスリム化」を図る基本的観点

#### (1) 「学校から合校へ」—学校の役割の見直し

学校の役割を見直すためには、答申にみられるように、家庭の教育力や地域社会の教育力との全体的な関連のなかに学校の教育機能をどう位置づけるかが肝要である。すなわち、それはさまざまな教育機能を有機的に関連づけることであり、学校教育の問題は家庭や地域社会を含めた社会全体の問題であるという観点に立つことを意味する。

この意味において、経済同友会の「学校から合校へ」の提言には学ぶべき点が多く、示唆的である。元来、「学校のスリム化」の用語は、この団体の提言を出発点としているらしい。「合校」は多様多彩な教育機能を合わせ持つ機関であり、それは「学校（基礎・基本教室）」を中核として、その周辺に「自由教室」（芸術教科や諸科学の発展のための教室）と体験教室（自然やさまざまな人との触れ合い、現実体験の場）とを配置し、これら三者の緩やかなネットワークとして統合されるという発想において学校のスリム化が唱えられていることに留意しなければならない。この「合校」構想の基底には、学校

をスリム化するためには家庭や地域ができることを引き受けようとする姿勢が顕著にうかがえる。

したがって、当然のこととしてこれからの学校は、自己完結的で絶対的な教育機関であるよりも、生涯にわたる学習をいかに実現していくか、そのトータルシステムの一要素としての役割を果たすことが要請されるのである。

### (2) 地域に委譲する部活動の改善方向

部活動の過熱化が教師の多忙感をおおするという意見が必ずみられる。部活動を地域の活動に委譲する観点は一つの解決方向を示す答申であり、歓迎したい。部活動の教育的価値を否定するものではないが、一挙にではなく徐々に委譲していく構えが大切であろう。部活動は学校の役割ではないという見解や地域の専門家を指導者に活用すべきであるという見解が根強いからでもある。

部活動を地域に委ね、学校には本来的なゆとりと充実感をとり戻すことが今、緊要であることを知るべきである。これまで、さまざまな教育活動に教育的意義や価値を強調しすぎてきたといったら言い過ぎであろうか。これではスリム化は至難といえよう。

### (3) 学校行事・会議の精選の観点

学校行事の精選については、従来からの行事を安易に受け継いだり、地域社会から持ち込まれる行事をそのまま受け入れることはなかったか等を反省し、とかく惰性に陥りやすい学校行事を見直さなければならない。削除できる行事、家庭や地域で行うことができる行事、簡素化しても目的達成が可能な行事は、この際、再検討すべき観点となる。

会議の精選については、会議の時間短縮と充実を努め、学校運営に関する基本方針は年度当初の職員会議で集中して協議することである。それ以外の学校行事や活動計画等の決定は、各専門委員会等の権限を拡大して委ねる観点で充実すべきであろう。ちなみに、筆者が関係する上越教育大学附属小学校では研修以外の職員会議は年2回が伝統となっている。

要は、「子どものため」の教育活動を観点とする「前例にとられない」徹底した学校のスリム化を図ることが重要である。